

情勢報告（平成 30 年 1 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

嶺北地域における農業のこれからを考えよう ～嶺北地域園芸戦略推進会議～



産地ビジョンの作成を提案

12月25日、JA土佐れいほく本所で嶺北地域園芸戦略推進会議を開催し、園芸部役員8人とJA、普及所が今年度の実績を確認し、次年度の方針を話し合いました。

普及所からは、4月に開催した同会議に引き続き、部会員が主体的に産地ビジョンを作成するよう提案しました。役員からは「新たな担い手を確保し産地を維持するためには、一定の所得を確保し、新規就農者の手本となり得るモデル農家の育成が必須である。産地ビジョンの作成について努力していきたい」という意見がでました。

今後、普及所は農家と関係機関が一体となって、将来方向を共有し、各部会が産地ビジョンを作成できるよう支援していきます。

本年の問題点を改善し、来作につなげよう ～ミニトマト部会反省会を開催～



病害対策について学ぶ

1月12日に、JA土佐れいほく園芸部ミニトマト部会はJA大田口支所で反省会を開催し、部会員7人が参加しました。

普及所からは、本年度の気象が収量に及ぼした影響と、問題となった葉かび病とすすかび病の相違点や対策を指導しました。また、次年度に導入を計画しているGAPについて情報提供しました。

参加者からは「本作は夏の高温から落花が多く、収量が低下した」「葉かび病やすすかび病の効果的な防除方法は？」など活発な意見交換が行われました。

普及所は、本作の問題点を解決する実証ほ等を設置し、来作の生産がより安定するよう支援していきます。

集落営農組織の収益向上にむけて頑張ります ～土佐町「伊勢川営農組合」栽培講習会～



栽培技術講義中

1月16日に土佐町伊勢川集会所において、「伊勢川営農組合」役員10人を対象にウメとチョロギの栽培講習会を開催しました。ウメやチョロギは、同組合が経営の柱として栽培から加工・販売まで取り組んでいる品目で、今後一層の収量の増大が期待されています。

普及所は果樹・野菜の専業農家以外でも解りやすい栽培マニュアルを作成し、時期・生育ステージに応じた管理作業や病害虫防除等を指導しました。

更に今回の講義を受け、1月28日に梅園で剪定講習会を開催することになりました。組合員は実地で技術を学び、高品質のウメをたくさん収穫したいと意気込んでいます。

水稻優良種子生産にむけて生産物審査(発芽試験)を実施 ～全て合格！～



種子の発芽状況を確認

11～1月普及所で、管内の水稻採種組合(田井、相川、計26人)の早期・普通期品種(8品種、42検体)における生産物審査(発芽試験)を普及指導員2人が行いました。

29年産米の収穫時期は、曇雨天が続いたことから、収穫が大幅に遅れ発芽への影響が懸念されましたが、全サンプルが発芽率90%以上で合格となりました。

ほ場審査の結果と併せて、本年度管内の採種組合が生産した全ての種子が「純系かつ健全である」と判断されました。

普及所は、高齢化が課題となっている水稻採種農家の生産体制が堅持出来るよう支援していきます。

収量増・安定生産を目指して ～土壌還元消毒実証～



自記温度計の設置

米ナス、ピーマンの雨よけハウスでは半身萎凋病や疫病等土壌病害の発生が問題になっていることから、平成29年度から栽培後の低温期での土壌還元消毒を実施しています。

昨年は米ナスで抵抗性台木の高接ぎと併せて実証したところ、半身萎凋病の発生が軽減されました。今年は、米ナスの他にピーマン、ミニトマト等4カ所で実施する予定です。

普及所は、処理期間中の地温やドブ臭の発生程度、作業工程等を調査し、有効で効率的と思われる土壌還元消毒技術を検討していきます。

経営を数字でつかもう！！

～第5回はちきん農業大学嶺北地域講座・新規就農者むけ農業基礎講座～



熱心に聴講する受講生

1月23日、普及所で第5回はちきん農業大学嶺北地域講座・新規就農者むけ農業基礎講座を開催し、女性農業者3人、新規就農者等4人が出席しました。

普及所の担当職員が講師となり、具体的な数字で農業経営を把握することの必要性について説明し、演習を行いました。受講者からは「まず経費をきちんと数字で捉えたい」「記帳の大切さが分かり、現状把握と分析に役立てたい」などの意見がありました。

普及所は、簿記記帳を通じて農業経営を数字で捉える習慣を身に付け、その改善につなげる農業者が増えるよう支援していきます。

キムチの販売額向上を目指して！！
～地域外の量販店に商談～



談笑のなか進む商談

1月24日、「本山町キムチ生産組合うれっこ」はキムチの地域外販路の確保を目的に、香美市の量販店へ商談に行きました。同生産組合4人に6次産業化支援チームアドバイザー1人、県職員3人も同席し、商品の特徴や化学調味料を使わないこだわりなどをPRしました。

普及所は、同組合に対し昨年度から関係者で構成する6次産業化支援チームを組み、味の改善や商品規格書の作成、パッケージの見直し等を検討し、衛生管理についても支援してきました。

量販店の社長から、「材料のチャーテやイタドリは珍しく、味もおいしい」と評価され、2月中旬に店頭で試食販売を行うことになりました。普及所は、引き続き販売額の向上を目指し、地域外の販路開拓などを支援していきます。